メインタイトル（テンプレートV20191105）

―サブタイトル―

姓姓　名名
所属は下記より1つ選んで他を消す。姓名行の直下に記載。

神戸大学 大学教育推進機構 国際コミュニケーションセンター

神戸大学 国際文化学研究科

神戸大学 大学教育推進機構（非常勤講師）

神戸大学 国際文化学研究科（大学院生or研究生）

姓姓　名名（第2著者がいる場合）

所属先
（著者が3名以上の場合は1行空けて以下，適宜追加）

Main Title in English

―Sub-title in English―

FAMILYNAME, First name

Choose one from the below.

Kobe University, IPHE, SOLAC

Kobe University, GICLS

 Kobe University, IPHE (Part-time Lecturer)

Kobe University, GICLS (Graduate Student/ Research Student)

FAMILYNAME, First name

(Affiliation for the second author)

概要（英語の場合はAbstract）

概要は，日本語論文では英語，英語論文では日本語で書くことを推奨しますが，執筆者判断に委ねます。分量は5～10行程度とします。「概要」だけを読んでも内容がわかるよう，「こういう目的」で「こういうデータ」と「こういう手法」を使って「こういうこと」をやった結果，「こういうこと」が明らかになった，の5つの部分を明確に書いてください。概要を英語で書いた場合は，冒頭の「概要」をAbstractに変更してください。

キーワード

あああ，いいい，ううう（3～5語程度）

# 1. はじめに（12p，MS　P明朝＋Century）

## 1.1 全体の書式の注意（10.5p，MS P明朝+Century）

本文開始（10.5p，MS P明朝＋Century）

このテンプレートにはWordの「見出し」の階層情報が埋め込まれていますので，このまま加筆ください。本文の基本フォントは，日本語がMS P明朝，英語がCentury，サイズはともに10.5pです。

Word上部タブの「表示」を選び，表示セクションの「ナビゲーションウィンドウ」に☑を入れて作業ください。これにより，下記のように全体の階層を一覧しながら執筆でき，節番号等の飛びが防止されます。



図1 表示＜ナビゲーションウィンドウを表示させたところ（図の見出しは図の下，センタリンク）

論文本体は，見出し行を除き，両端揃えです。

論文中の英数字はすべて半角。漢数字かアラビア数字か迷えばすべてアラビア数字でお願いします。

日本語論文では全角「，」（「、」ではない！）と全角「。」を使用します。

英語で書く場合も，本テンプレートに準拠ください。概要はAbstract，キーワードはKeywords，参考文献はBibliographyとなります。ボールドは使用しないでください。

注はできるだけ避けてください。どうしても必要な場合は論文末尾に固めて記載ください。Wordの脚注機能の使用はできません。

オンライン刊行ですので，カラーを使用いただいて問題ありません。グラフなど，白黒で視認しにくい場合は，積極的にカラーをお使いください。

カッコ類は日本語文中では全角，英語文中では半角を基本とします。

# 2. 先行研究（見出し1：階層レベル1, 12p）

## 2.1 研究目的とRQ（見出し2：階層レベル2, 10.5p）

### 2.1.1 サブセクション（見出し3：階層レベル3, 10.5p）

#### 2.1.1.1 さらに小さいサブセクション（見出し4：階層レベル4, 10.5p）

ここから（本文は10.5p）。セクションタイトル内の数字とピリは半角。上記のセクションタイトルには階層情報が設定済みです。新しい章やサブセクションを作られる場合は，上記の該当行をコピー＆ペーストして内容を変更されると便利です（階層情報が引き継がれるため）

# 3. リサーチデザイン

## 3.1 研究目的とRQ

サブセクションのタイトルには「見出し2」のスタイルが設定済みです（他と同じ10.5p）。ただし，本文はいつも「標準」スタイルで書きます。

## 3.2 データ

・・・

## 3.3 手法

### 3.3.1 データの事前処理

・・・・

### 3.3.2 分析の手順

・・・・



図2 図はセンタリンク。図の「下」にタイトルをいれます（タイトルもセンタリング）

表1 表の「上」にタイトルをいれる（センタリング）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| Student | Aaaaaaaa | Bbbbbbbb | Cccccccc |
| s1 | 45 | 42 | 66 |
| s2 | 67 | 31 | 44 |
| s3 | 87 | 22 | 33 |

APA6風にまとめる場合は，上記のように，表内セルにおいて１行目の見出し行はセンタリング。数字は右寄せ。文字（s1等）は左寄せ，縦線は引かない，のが基本書式です。原則は，表内も本文と同一フォント・書式です。

ただし，大きな表を入れる場合など，必要に応じて改行幅を圧縮したり，視認性が確保される範囲でフォント数を下げていただいたりしても結構です。上記の表の書式はAPAの例ですが，各自の専門分野での標準的な体裁に合わせ，縦横線を入れた表にしていただいても結構です。

# 4. 結果と考察

## 4.1 RQ1 ＊＊＊＊

ここから結果・・・

## 4.2 RQ2 ＊＊＊

ここから・・・

## 4.3 RQ3 ＊＊＊

ここから・・・

# 5. まとめ

目的，RQ，結果をまとめ，必要な場合は教育的示唆や，制約と課題に言及ください。

# 謝辞

本研究は科学研究費…（該当ない場合はこのセクションなしでも問題ありません）

# 引用文献

実際に言及した文献に限ります。下記ではAPA7（2019年11月リリース）を基本にした書式を示しますが，MLA, Chicago等，各自の分野の標準的な文献記載書式にしたがっていただいて結構です。文献が日英等，混在する時は，原則としてアルファベット順で混ぜます。Aitchison…安藤…安西….Birchfield…等。

ジャーナル論文の場合

Kobe, A. (2018). Language education reform and its impact: A national survey report. *International Journal of College* *Education*, *45*(1), 5-32.

引用文献リストでは，2行目以下を全角2文字（半角4文字）分落とします。手作業でスペース挿入すると端が揃わないので，下記のようにタブで指定下さい。上記をコピーペーストされると，タブの情報も一緒に移りますので便利です。



図3 タブの設定（画面の上のほうにあります）

APAの場合，論文名は普通体（イタにしない， “ “つけない）。雑誌名はイタリックです。

論文名では，タイトルおよびサブタイトルの冒頭1語のみ，語頭を大文字にします。

一方，雑誌名は単語ごとに語頭を大文字にします。

ジャーナルのページ数を示す場合にはpやppは不要です。

doiがある場合はdoiも記載します。

巻号情報は，巻はイタリック，号はその後のカッコ内に記載します（巻号間は半角空けない）。

神戸愛子(2016). 「大学教育と外国語」 『言語教育論集』 (A大学文学部) *3*, 11-12.

日本語の場合，「」と『』は全角，()は半角。項目の隙間に半角スペースを挿入ください（視認性確保のため）。

日本語の場合も「ｐ，ｐｐ，ページ数」等は入れず，数字のみ記載します。

雑誌名は『　』で入れますが，雑誌名だけではどの雑誌か特定しにくい場合，上記のように(　)で刊行所を添えることもできます。ただし，『ABC大学紀要』，『ABC学会論集』等，題目で自明の場合は(　)の添え書きは不要です。この添え書きルールは日本語文献にのみ適用されます。

単行本の場合

Rokko, S., & Rokko, Y. (2011). *Chinese language teaching: A basic guide*. ABC University Press.

書名の題目であっても，大文字にするのはタイトル及びサブタイトルの冒頭の1語の語頭のみです。

出版社名は，単語ごとに語頭を大文字にします。

APA7より出版社の所在地は記載不要になりました。

六甲悟(2018). 『中国語の教え方：初学者を対象に』 東京：ABC書籍.

論文集掲載の論文の場合

Tsurukabuto, A., Tsurukabuto, B., & Tsurukabuto, C. (2019). Possibilities of Kobe as a port city. In A. Kobe & S. Rokko (Eds.), *Cities and cultures* (pp. 23-45). Nihon Publishing.

編者のいる論文集等に含まれている論文に言及する場合はこの形式です。

論文名はイタなし。書名はイタです。

この場合のページ数のみpp. xx-yyとなり，pp.が入ります。

著者名の場合は，Kobe, A., & Rokko, S.のような表記スタイルとなりますが，編者名は上記のようにA. Kobe & S. Rokkoとなります（※編者名記載では，姓名順がひっくり返り，2名の場合のカンマが不要になります）。

鶴甲昭・鶴甲太郎・鶴甲英恵 (2019). 「神戸の魅力」 篠原大三・日尾恵子(編) 『都市と文化』 (pp. 23-56). 神戸：あいうえお書房.

テンプレート改訂記録

2019/11/5 参考文献内の用例の誤記を修正。所属先の表示例を修正。APA7対応。（石川）

2019/11/01　新版に変更。（石川）

テンプレートにかかる連絡先

神戸大学大学教育推進機構国際コミュニケーションセンター　論集編集委員会

石川慎一郎　iskwshin@gmail.com